

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	勝谷紀子	所属	青山学院大学
研究集会等名称	難聴者の心理学的問題を考える会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 14 名 (うち認定心理士 2 名) 非会員 7 名 (うち認定心理士 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>日本では、潜在的には数百万から1千万人程度難聴者がいると推測されている。しかし、当事者が問題を自覚していなかったり、あるいは周囲に明らかにしていなかったりするために、難聴者の抱えるさまざまな問題が理解されない、理解されにくい現状がある。</p> <p>本研究会では、聞こえや聞き取りに困難があるにもかかわらず、難聴に対する理解や配慮が十分でないことから生じる心理学的問題を考える。研究会メンバーは、障害児教育、知覚心理学、認知心理学、臨床心理学、発達心理学、社会心理学、認知心理学などさまざまな領域で難聴の研究をしている研究者が主なメンバーとなっている。</p> <p>昨年度は、メーリングリストを通じて会員同士が議論、情報交換を行い、難聴者のもつ心理学的問題について考えた。具体的には、全聾の聴覚障害を持つ作曲者の作品がゴーストライターによるものであったという一連の問題の報道の仕方から、難聴者についての理解が依然として乏しいこと、誤解がある問題があった。そこで、難聴者の理解についてどのような現状であるか、理解を深めるにはどうしたらよいかを議論した。</p> <p>活動の成果は、2014年度日本心理学会の公募シンポジウム「難聴・難聴者への理解を深めるためには」で報告した。公募シンポジウムには、学会開催地である京都在住の難聴者も参加した。ワークショップの開催により、難聴にまつわるさまざまな問題について情報交換を行うことができ、新しい会員がさらに加わった。</p> <p>今年度は、難聴者への偏見や誤解があるという現状をふまえて、難聴者へのネガティブな認知について考える。難聴者へのネガティブな認知にどのような特徴があるか、どのような要因が難聴者へのネガティブな認知につながるか、ネガティブな認知を修正するにはどうしたらよいかを考え、その成果を公募シンポジウムで報告する。</p>		

(様式5)

2015年7月9日

日本心理学会研究会 2014 年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会難聴者の心理学的問題を考える会

研究会番号 研 14025

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2014年9月10日	非会員（公募シンポジウム登壇者）第78回大会参加費	¥12,000
2014年9月12日	非会員公募シンポジウム登壇者謝礼	¥10,000
2014年9月11日	交通費（学会大会時に非会員公募シンポジウム登壇者が移動をするため）	¥930
2014年4月1日- 2015年3月31日	消耗品（文具、インク等）・コピー代	¥5,012
2015年7月15日	返金（日本心理学会）	¥2,058
(日付は予定)		
	支出合計	¥30,000